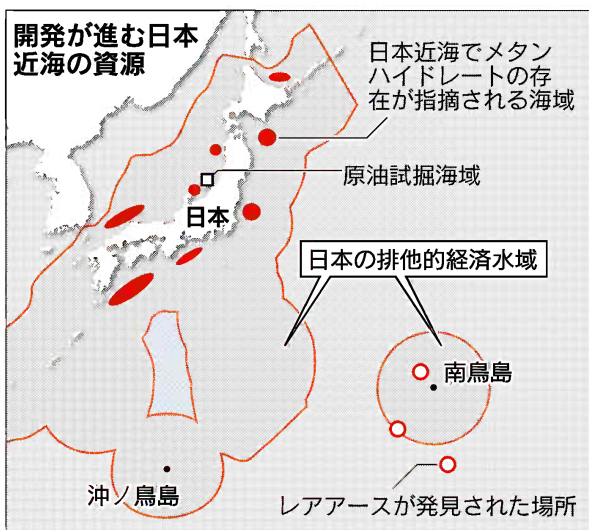


近海資源 予想超す埋蔵

日本近海に予想以上に豊富な資源が眠っていることが明らかになってきた。海洋研究開発機構と東京大学の研究チームは21日、小笠原諸島・南鳥島沖（東京都）の海底の泥に含まれるレアアース（希土類）は、海底から浅い場所に最高で中国鉱山の30倍超の高濃度であることが分かったと発表。採掘する技術やコストに課題は残るが、国産資源が乏しいだけにメタンハイドレートなどと合わせ海洋資源に期待が高まる。

東大の加藤泰浩教授らの研究チームは昨年6月、日本の排他的経済水域（EEZ）の南鳥島沖の海底の泥に、レアア

商用化へ開発急ぐ



開発が進む日本近海の資源

スの中でも特に希少でハ イブリッド車（HV）の モーターなどに使われる 「シスプロシウム」が国 内消費量の約2300万分 ありと推定されると発表 した。今回の調査で加藤 教授は「2300万分以上 埋蔵する可能性がある」

の1)の濃度で含まれて いることが分かった。 シスプロシウムは中国 鉱山の32倍の濃度になる という。高濃度であれば 採掘コストも下がり、商 用化の可能性が高まる。 海底下3びと浅い場所 に あることも判明した。

レアアースの生産は9 割超を中国が占め、輸出 規制による供給や価格高 騰に不安がつきまとう。 経済産業省は来年度から 南鳥島沖の調査を本格化 し、3年間で約40カ所を 試掘する予定で、政府は 商用化に向けた技術開発 も急ぐ。

政府は今日12日、愛知 ・三重県沖の海底のメタ ンハイドレートから燃料 用のメタンガスを取り出 すことに世界で初めて成 功。同沖合には日本の液

化天然ガス（LNG）輸 入量の11年分の資源量が 確認されており、今回は 事前の陸上実験の約9倍 を産出した。

メタンハイドレートは 日本海側の浅い海底でも 確認され、比較的安く採 取できる可能性もあると して研究が進んでいる。

このほか新潟県佐渡南 西沖では原油・ガスがた まりやすい地層を確認し ており、石油と天然ガス の試掘調査が始まる。総 額98億円を投じて埋蔵量 などを調べるが、国内最 大との見通しもある。

日本近海では、海底か ら噴出する熱水の金属成 分が沈殿してできた海底 熱水鉱床の探索も進む。 銅や亜鉛、金、銀、ガリ ウムやゲルマニウムなど

のレアメタルを含む「宝の山」だ。伊豆諸島や小笠原諸島、沖縄の近くに分布することが分かっており、比較的浅く分布するため技術的に有利とする見方もある。ただ、いずれも現時点では採取コスト高が課題で、商用化には今後の技術革新が不可欠だ。新興国や途上国の急速な経済成長に伴い資源価格が急騰すれば、海底資源も現実味を帯びてくるとみて、米国やフランスなど海外でも海洋資源は注目されている。